

エミン・ナザロフ 研究員（アゼルバイジャン）



す。

はじめまして。私はアゼルバイジャンから来ましたエミン・ナザロフと申します。アゼルバイジャンでは、緊急事態省の危機管理センター（CMC）という組織でシニアアドバイザーとして働いています。CMCは緊急事態省の主要な部署のひとつで、“112-ホットライン”の通信設備を通じて、緊急事態省の他の防災関連機関と連携をとって活動をおこなっています。CMCにおけるシニアアドバイザーとしての職務としましては、アゼルバイジャン及び世界各国で発生している自然災害や人的災害に関して、様々な情報を収集および分析をして、さらに書籍の編集編纂などもおこなっています。

さて、アゼルバイジャンの地理的特徴として、広大な面積を有しています。そのため、周辺各国と比較しても、最も災害が多い国の一つとして知られています。特に、石油やガス開発における自然災害の影響や危険性というのは年々増加しています。また、アゼルバイジャンの領土はアルプス造山運動によって形成されたため、地形学的に多くの地震が発生する地域でもあります。さらに、洪水や地滑りのような他の自然災害についても、被害の危険性や課題を有しています。

アゼルバイジャンはこのような環境にあるため、防災及び減災という分野において、災害管理、緊急管理システムの構築、災害リスク軽減の活動、国際協力の促進などに関心が高く、率先して取り組んでいます。

緊急事態省は大統領宣言のもと 2005 年に設立された新しい組織です。同省が設立されてから数年ではありますが、これまで効果的な能力開発事業を促進し、さらに近隣諸国対しても効果的な、災害対応の優良事例となる活動を多く取り組んで参りました。

アジア防災センターの客員研究員プログラムは私にとって、日本の防災システムの優良事例や国際機関の活動等を身近に学ぶことができる素晴らしい機会になると思います。最後に、客員研究員プログラムの参加にご支援頂いた、アジア防災センターの職員の方にお礼を申し上げます。